

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒が自信をもって社会に巣立つよう、本校の校訓である「堅忍不拔」「好学叡知」「和衷協同」の実践を通して、生涯にわたり、「能動的に学び続ける力」を育むとともに、高いコミュニケーション力に裏打ちされた豊かな「人間力」を持ち、リーダーシップを発揮して社会貢献できる生徒を育成する学校、地域に根付いた地域に愛される学校をめざす。

①確かな学力の育成と第一志望の進路実現

②豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成

③生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と第一志望の進路実現

- (1) 主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善に取り組み、第一志望の進路実現へ向けた生徒の学力・教員の授業力向上を図る。
- ア 生徒による授業評価や教員相互の授業見学・研究授業等を充実させ、授業内容・指導法の改善を図るとともに組織的に授業力の向上に取り組む。
- イ 基礎学力の定着度を測定し、各教科で学習内容並びに指導法の改善に努める。全教科において基礎的事項の確実な定着を図る。
- ウ 「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」を養うため、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業を行うとともに、これまで進めてきた「総合的な探究」の授業の成果をもとに、生徒の授業内活動量を増やし、学びを深める。
- エ 1人1台端末として配備されているタブレット、プロジェクター等のICTを活用した授業づくりなど、様々な授業の工夫を行い実践する。
- ※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(R1 82%、R2 85%、R3 86%)令和6年度には90%以上にする。
- ※ 学校教育自己診断における生徒の授業満足度(R1 78%、R2 80%、R3 87%)を、令和6年度には90%以上にする。
- ※ 「学力生活実態調査」における1、2年生のGTZのBへの確実な定着をめざす。
- (2) 一人ひとりの学習状況に応じた学習指導を実践する。
- ア 進学講習、授業の補習等を組織的、計画的に実施する。
- ※ 学校教育自己診断「学習支援の充実」令和6年度90%以上を維持する。(R1 84%、R2 84%、R3 90%)
- (3) アクティブ専門コース(アクティブ音楽コース、アクティブスポーツコース)の充実。
- ア 生徒の得意分野や興味・関心の深いエリアをさらに支援し、伸ばすことを目的としながら、自信や意欲を支える自尊感情や自己肯定感を高め、自己実現をめざす志を育み、学習面とは違った側面から学力の向上も図る。
- イ 何事にも積極的に取り組む姿勢を育むとともに、リーダーシップ、忍耐力、集中力、協調性、社会性、奉仕の精神など、社会で必要とされる「生きる力」を育む。
- ウ アクティブ音楽コースについて学校経営推進費を獲得(R3)「得意を伸ばす!アクティブコース充実プログラム」(作曲支援ソフト、プロジェクター、アクセスポイント設置等)
- 令和6年度には授業アンケート95%以上。コース選択者7%以上。授業課題として「作曲」した最優秀作品をコンクールに提出し、入選をめざす。
- (4) 3年間を見据えたキャリア教育計画等の充実により、生徒のキャリア意識の向上を図り、100%の第一志望の進路の実現をめざす。
- ア 学年・教科・分掌が連携し、希望する進路に応じた支援の充実を図ることを通して、将来の夢や目標に向かって学習に取り組む姿勢を養い、第一志望の進路実現に向けて最後まであきらめず頑張りぬく生徒を育てる。
- イ 進路指導部、学年が協力して、LHRを計画的に実施し、キャリア教育を推進することを通して、将来について自ら考え、夢の実現に向けて自ら行動する生徒を育てる。
- ※ 学校教育自己診断 「1、2年時からの進路を意識した学習のスタート」 令和6年度45%以上をめざす。(R1 43%、R2 40%、R3 35%)
- (5) 自学自習の習慣の確立と学習と学校行事や部活動の両立。
- ア 授業外校内学習指導の実施により、自律学習を支援し、学習意欲の向上、家庭学習の充実を図り、学力向上をめざす。
- イ 生徒の学習に対する初期指導として、入学当初に学習オリエンテーションを実施する。
- ウ 自習室や図書室の利用を促進し、学習と学校行事や部活動との両立を図る。
- ※ 学校教育自己診断 「家庭学習を十分行っている」 令和6年度70%以上をめざす。(R1 64%、R2 62%、R3 66%)
- ※ 部活動の加入率 令和6年度90%以上を維持する。(R1 89%、R2 90%、R3 85%)
- ※ 令和6年度に国公立大学の合格者数を10名、関関同立の合格者数を50名以上に伸ばす。(R1国3名、私23名、R2国4名、私43名、R3国1名、私36名)

2 豊かな社会性及びたくましく生きる力の育成

- (1) HR活動、学校行事、生徒会活動、部活動等で生徒の自主性を育成し、自分を鍛え、人とのつながりの大切さを学ぶとともに集団の中で人と調和しながら活動できる能力を育成する。
- ア 体育祭、文化祭、修学旅行、遠足、芸術鑑賞等の学校行事の充実を図る。
- ※ 学校教育自己診断 「行事が生徒中心に組織的・効率的に運用」 令和6年度95%以上(R1 91%、R2 93%、R3 95%)
- (2) 生徒の自主性、主体性を重視した生徒会、CM会議(部活動のキャプテン、マネージャー会議)、図書委員会等の活動を充実させ、生徒の可能性を最大限に伸ばす教育を実践し、生徒の自己有用感を醸成する。
- ア 生徒会等を中心とした学校行事、地域連携、ボランティア活動、あいさつ運動等の充実を図る。
- ※ 学校教育自己診断 「生徒会活動が活発」 令和6年度90%以上(R1 84%、R2 86%、R3 82%)
- (3) 基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努めるとともに、挨拶や通学等のマナーを向上させる。
- ア 基本的生活習慣の確立を図るため、欠席、遅刻についての指導を強化するとともに挨拶する態度を確実に身に付けさせる。
- イ 生徒の安全確保と地域に信頼される学校づくりの一環として、自転車通学を中心に通学マナーの向上に取り組む。
- ※ 学校教育自己診断 「基本的生活習慣の確立に力を入れている」 令和6年度90%以上を維持する。(R1 89%、R2 90%、R3 95%)
- (4) 海外からの生徒の受入れ、海外への生徒派遣、オンライン交流も含め、グローバル社会に対応できる人材の育成に向けた取組みを、PT「国際交流委員会」を中心に実施する。
- (5) 保護者との連携を図りながら、安全で安心な学校づくりを推進する。特に生徒理解、教育相談の取組みをさらに組織的に発展させるとともに、個々の生徒への支援体制を一層充実させる。
- ア 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実を図るため、家庭連携、中高連携をさらに進め、課題の大きな生徒の指導、支援の方針を担当会、保健部会、教育相談委員会、就学支援委員会などで組織的に検討し、指導の充実を図る。
- ※ 学校教育自己診断(保護者) 「家庭とのきめ細かい意思疎通と相談について」 令和6年度90%以上(R1 83%、R2 87%、R3 86%)
- (6) 開かれた学校づくりにより保護者や同窓会、地域との連携を密にし、さらなる生徒の育成を図る。
- ア 地域イベント等において生徒の出番を多く設定することにより、地域コミュニティの中での「育ち」を支援する。
- イ 地元中学校運動部交流大会「香里カップ」や地域文化交流イベント「香里フェス」を開催する。

3 生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上

- (1) 大規模自然災害に備えた危機管理体制の確立及び校内組織の見直しを行う。必要に応じてプロジェクトチーム等の新設及び改廃を行い、円滑な組織運営を行う。また、本校のめざす学校像の実現に向けて一丸となって課題に取り組む教職員集団づくりをさらに推進する。
- (2) わ・サ・ジョブ・トレーニング(OJT)が盛んに行われるような職場環境づくりを行うとともに、香里会(新任を中心とした研修チーム)を活用した経験年数の少ない教員等の育成を図る。
- (3) 広報活動の充実を図り、本校教育の素晴らしさを積極的にアピールする。
- ア 中学校や地域住民に対する広報活動をさらに充実させる。
- イ ホームページ、香里丘メールサービス配信等で情報提供に努める。

4 校務の効率化と働き方改革の推進

- (1) 外部人材を利用したり、ICTを活用して校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減するとともに、教職員のICT活用能力を高める。
- (2) 学校保健委員会、安全衛生委員会を活性化するとともに、「大阪府部活動の在り方に関する方針」「府立学校における働き方改革に係る取組について」等を踏まえ、生徒・教職員の健康管理体制を充実させる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 4 年 12 月実施〕	学校運営協議会からの意見
【学習指導】 ○生徒 ・集中して授業を受けられていると感じている生徒が、近年３年間の平均が 85%を超えており、落ち着いて学習できる環境が整っていると考えられる。また教員も同様に捉えており（３学年の平均が 90%以上）今後も継続すべく取り組んでいかなければいけない。 ・一方で予習・復習等家庭学習への取り組みや主体的に学習に励む実行力という点においては毎年改善するものの肯定回答率が 68%と以前厳しい状況（昨年比 2%改善）。ただ、受験を控えている３年生においては肯定回答率は上がる（１学年に比べ 14 ポイント高い）ものの、看過できる数値ではなく、引き続き早い段階からの意識付けが涵養である。 ○保護者 ・上記の状況に対し保護者への、「子どもは家庭学習に積極的に取り組んでいる」との問いに対し、肯定回答 57%と生徒と同様の傾向を示しており、家庭学習の習慣が身についていないことがうかがえる。 ○教職員 ・「授業力や教科指導力の向上について日常的に話し合いがもたれている」との問いに対する肯定回答が 65%→65%→87%と、低迷していたものが大きく改善されている。近年のコロナ対応、ICT を活用しての授業、また観点別評価への移行と対応すべき問題に、教科等組織的に授業力向上へ向けた結果ではないかと考えられる。同様に「教員間の中で、授業方法等について研究する機会を設けている」も、15 ポイント改善されている。 ・「授業アンケートの結果を自らの授業改善に活用している」の問いに対しては (83%→84%→93%)と、授業力向上への意欲が高いことがうかがえる。さらにこれまで (67%→63%)と芳しくない数値だった「学習意欲の高い生徒の期待に応える取り組みが行われている」は (82%)へと上昇しているが、これは 43 期生の３年時から はじまるアドバンスクラスに接続させるため取り組んだ「みらいグループ」などの成果かどうか見える。 【進路指導】 ○生徒 ・「進路実現のための支援が充実している」、「将来の進路について自ら考えることができるようになりつつある」の各問いに対する肯定回答が３学年の平均が 87%以上）と、３年間を通して適切な指導が行われていることが数値に反映していると考ええる。また近年のコロナ禍の影響により、入試直前まで不安を抱える生徒に対しても適切な指導も反映していると考ええる。 ○保護者 ・「生徒の進路実現に向けた適切な指導を行っている」「進路に関して家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」の各問いに対し肯定回答がいずれも３学年の平均が 83%と保護者にも理解いただいていると感じる。 【生徒指導】 ○生徒 ・「ルールやマナーをきちんと守っている」の肯定回答は（３学年平均 95%）で、ほとんどの生徒はマナーをわきまえた行動がとれていると考える。 また「学校の生徒指導の方針は納得できる」では、(69%→80%→81%)と向上しており、一応の理解はされていると考えるが、今後も指導状況を確認しつつ進めていく。また、保護者においても (85%→88%→86%)と、理解をいただいていると考える。 ○教職員 ・「生徒に対する様々な指導において、家庭との連携ができている」に対し (92%→97%→100%)と、肯定回答が高く、今年はすべての教員が肯定しており、事前の連絡から、指導の説明、生徒へのフォローなど、保護者を含め行っている表れだと考える。 ・「教育相談体制が整備されており、組織的な対応ができている」（３学年平均 85%）「生徒が教職員に相談しやすい環境が整っている」（３学年平均 88%）と、こちらも生徒に対する環境が組織的に作られている表れだと考える。 【学校運営】 ○保護者 ・「地震や台風など災害時の対応について子どもや保護者に知らされている」が（３学年平均 85%）、これは近年の新型コロナウイルスに対する連絡体制の整備や、体育祭の Live 配信、説明会などを動画により発信してきた評価だと考える。今後も効果的で、適切な情報発信を考えていく。 ○教職員 ・昨年「１人１台端末」が導入されたことにより新設した「学校は ICT 機器を効果的に活用している」の肯定回答は。教員 73%→84%、生徒 78%→80% 保護者 75%→83%と、全てで上昇。前年に比べ生徒、教員ともに「１人１台端末」を効果的に活用できており、「１人１台端末」使用を前提にした授業も増えているためだと考える。また登校できない生徒に対しては、引き続きオンライン授業等による学習保証が実施できている。	【第 1 回】令和 4 年 6 月 25 日開催 ●令和 3 年度学校評価、令和 4 年度学校経営計画について ・観点別評価は、大阪の保護者にはまだまだ浸透していないのが実状。 「子どもに身につけさせたい力」を明確にするためには有用だが、一方で、評価する側（教員）には大きな負担ではないか。 ・香里丘高校の ICT 環境は充実しているとはいいいがたい。整備に関しては、府教委に責任があると思われるので、整備するよう伝えてほしい。 ●その他質疑応答 【第 2 回】令和 4 年 11 月 4 日開催 ※授業見学など校内観察を行い、その後協議を行った。 ●授業見学など校内観察からのご意見 ・授業における生徒の取り組み姿勢がよい。 ・スポーツコースにおいて上級生が下級生に教える機会があり、主体的な学びができています。 ・生徒が英語にて行う時間が少なかったのではないかと。 ・つまづいている生徒の支援をどのようにしていくか。授業進度の検討が必要と感じる。 ●学校経営計画の進捗状況について ・高校では 1 年生の最初が学力のピークで、その後衰退していく傾向が強い。 ・探究における大学との連携、指導を今後も大切にしてほしい。 ●スクールミッションについて ・保護者としては一応受験の参考にする。 ・卒業生として、生徒であったときと校風が受け継がれているので、引き続き守ってほしい。 ●その他質疑応答 【第 3 回】令和 5 年 1 月 27 日開催 ●令和 4 年度学校評価（案）について ・生徒が「食堂の方と面談を行った」とのことだが、生徒が学校の設備に興味を持つことはよいことであり、また希望しても環境によっては「できない」ことがわかることは大変よい学びとなり、よい取り組みであると思う。 ・蹉跎東小 2 年の生活科で行う「町探検」の 1 つの場所として受け入れをしていただくことは、地域としてもありがたい。次年度以降もお願いしたい。 ・遅刻・欠席連絡の Web 導入は、利用したことがあるが、Web 上から入力できるので大変助かる。 ●令和 5 年度学校経営計画（案）について ・進路先の目標数値（例：関関同立合格者数など）があるが、実際生徒が希望するとは限らないので希望する進路の実現と見合ったものでよいのではないかと。また、委員会から指示があるのであれば、運営協議会でこのような話が出たと話されてはどうか？ ●リーディング GIGA ハイスクール事業について ・設置された電子黒板、ならびに映写説明。 ●その他質疑応答

府立香里丘高等学校

2 豊 か な 社 会 性 及 び た く ま し く 生 き る 力 の 育 成	(1)生徒の自主性を育成し、自分を鍛え、人とのつながりの大切さを学ぶ。 ア、生徒の自主性を育むHRの充実 イ、学校行事の充実 ウ、部活動の奨励 (2)生徒会活動の充実 ア、自主性、主体性を重視した生徒会活動の奨励	(1) ア・生徒の自主性を尊重し、「香里を考えるHR」の充実を図り、学校生活改善の提言をさせ、帰属意識を高める。 イ・体育祭・文化祭の生徒の達成感をさらに向上する。 ウ・新入生に対し、部活動入部を強く勧める。 (2) ア・生徒の自主性、主体性を重視した生徒会活動を奨励し、中学生対象の授業・部活動体験での発表、新入生歓迎行事の充実、CM(キャプテン・マネージャー)会議、クラブ総会の充実、保健委員会、図書委員会の活動の活性化など、生徒会等を中心とした学校行事、地域連携、ボランティア活動の充実を図る。	(1) ア・生徒からの学校生活改善等提言内容によって評価 イ・満足度 80%以上を維持[体育祭 89%、文化祭中止 vc] ウ・部活動加入率 1 年生 85%以上を維持[85%] (2) ア・CM 会議年間 20 回以上。クラブ総会の年 3 回の継続と内容の充実[CM 会議 13 回、総会 2 回] ・図書委員会による図書館活動状況 ・学校教育自己診断「生徒会活動が活発」肯定率 85%以上[82%]	(1) ア ・食堂の利用活性化と学校の設備や備品に関する提言を受け、備品の交換や食堂業者との面談が実現 (○) イ ・満足度：体育祭 91%、文化祭 96% (◎) ウ ・部活動加入率 1 年生 88% (○) (2) ア ・CM 会議 24 回 (○) 総会 3 回 (○) ・図書委員は、毎日昼休み等に貸し出し業務を行っているほか、図書登録補助 (PC 登録作業以外) も行えるようになっていた。また、館内表示作成、「図書だより」発行、ポスター掲示等の啓発活動も工夫しながらを進めている。学年別の読書推進行事では学年を盛り上げるためのアイデアがたくさん出され、よりよい行事にするためにそれぞれの意見が交わされた。(○) ・「生徒会活動が活発」88% (○) 食育セミナーや校門付近のライトアップを生徒会企画で実施。生徒会を中心に学校紹介動画を制作中(○)
	(3)規律ある学校生活 ア、通学マナーの向上 イ、遅刻指導の強化と挨拶の奨励 ウ、校内美化の推進	(3) ア・通学マナーの指導及び交通安全指導をさらに強める。特に、生徒が被害者、加害者にならないように自転車のマナー指導を強化する。 イ・基本的生活習慣の定着に努め、遅刻者数の減少を図る。日々の学校生活の中で教員側から挨拶をすることを通して、自然に挨拶をする雰囲気を醸成する。 ウ・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。	(3) ア・毎日の登下校時の自転車指導の実施 イ・遅刻者数前年度比減 本遅刻 [599 名] ・挨拶運動の実施と日常の教職員からの挨拶を含む声を継続的に実施できたか。 ウ・校内美化についての学校教育自己診断の肯定率 75%以上[77%]	(3) ア ・毎日登下校で当番を組みしっかり取り組んでいる。(○) イ ・遅刻者数 717 名 (△) ・毎朝、正門付近で複数の教職員が立ち、挨拶指導を行っている (○) ウ ・「校内美化」88% (◎)
	(4)グローバル社会に対応できる人材の育成 ア、海外生徒等との交流	(4) ア・海外の生徒等との交流 (Web 会議システム利用含む)。「国際交流委員会」が中心となり、海外生徒との交流 (オンライン交流)、海外への生徒派遣を行う。	(4) ア・海外生徒等との交流 2 回以上[2 回] ・交流活動、生徒海外派遣 満足度 80%以上[中止]	(4) ア ・オンライン 3 回、対面 2 回 (○) ・コロナ禍で学校全体としては実施できず、イングリッシュクラブを中心に実施した。状況を見ながら来年度の本格的な再開をめざす (△)
	(5)安全で安心な学校づくりの推進 ア、PTA 活動の推進と家庭との協力体制の充実 イ、個々の生徒への支援体制の充実 ウ、教育相談の充実	(5) ア・PTA と共催で、人権研修や登校指導等を実施し、保護者と連携して安全で安心な学校づくりを推進する。登校指導については、地域との連携を模索する。 イ・様々な事情により、学校生活を送るにあたって困難を伴う生徒について、就学支援委員会で生徒支援カード等により収集した情報を共有し、個別の支援計画など、保護者と連携しながら作成、充実した指導をめざす。 ウ・スクールカウンセラー等専門人材の活用により教育相談体制等をさらに充実する。	(5) ア・PTA による登校指導 5 回以上[4 回] ・人権を学ぶ機会 学校教育自己診断 保護者 85%以上を維持[85%]生徒 85%以上[83%] イ・就学支援委員会を年 3 回以上開催し、情報を共有し生徒の支援をする[5 回] ウ・学校教育自己診断(悩み相談)60%以上[56%]	(5) ア ・PTA 登校指導 4 回 (△) ・「人権を学ぶ機会」保護者 88% (○) 生徒 81% (△) 1 年生：SNS、拉致問題 2 年生：移民・難民 3 年生：労働者の人権 いじめアンケート、セクハラアンケートの実施。 「政治・経済」で同和問題について学習したほか、体育祭・文化祭の T シャツデザインを人権推進委員会で確認するなどした。 イ ・就学支援委員会 4 回 (○) ウ ・「悩み相談できる先生」62% (○) (友人・先輩 91%)
	(6)開かれた学校づくり ア、地域の学校や団体との連携・交流	(6) ア・地元中学校運動部交流大会「香里カップ」や地域文化交流イベント「香里フェス」を開催する。 ・地域の学校や団体との連携・交流をさらに充実させる。	(6) ア・「香里カップ」「香里フェス」を合せて 5 部以上を維持[4 部] ・連携・交流の状況。	(6) ア ・「香里フェス」吹奏楽 11/13 「香里カップ」ソフトテニス 11/27 ソフトボール 12/24 サッカー12/25 男子硬式テニス 3 /27 女子バスケ 3 /30 (計 6 部) (○) ・地域の学校や団体と複数回の交流や連携を行った。詳細は以下の通り。(○) ➤ 蹉跎東校区地域コミュニティ協議会と枚方市立第四中教育協議会は、今年度も書面表決 ➤ 枚方市立蹉跎中の協議会には出席 ➤ 生徒会に国際ソロプチミストから支援金 ➤ 枚方市総合文化祭に箏曲部、五常小文化祭に吹奏楽部が出演 ➤ 蹉跎東小 2 年生の授業に協力 ➤ 生徒会がクリーン・キャンペーンを 3 年ぶり実施など

府立香里丘高等学校

3 生徒の力をしっかり伸ばす学校力の向上	(1) 校内組織の見直しと体制づくり ア、災害に備えた危機管理体制の充実。 イ、円滑な組織運営と一丸となって課題に取り組む教職員集団づくり (2)経験年数の少ない教職員の育成。 (3)広報活動の充実。 ア、効果的で適切な情報発信	(1) ア・地震・火災対応・AEDの使用について教職員・生徒への新たな周知方法を研究する。 ・防災について、地域との連携を図る。 イ・プロジェクト委員会が中心となり、必要に応じてPTや委員会を新設及び改廃し、教職員の意見を大切にしながら、円滑な組織運営を行う。その際、原則、有志参加者も募るなど教職員の参画意識の向上を図る。 (2) ア・経験年数の少ない教職員対象の勉強会「香里会」を実施する。自信を持って授業や生徒指導等ににあたることができるよう進める。研究授業を実施するとともに、危機管理を含めた保護者対応、授業、部活動指導等について先輩教職員の指導に学ぶ。 (3) ア・中学生学校見学会、HPの更新、中学校訪問など総務部が中心となって中学校や地域住民に対する効果的で適切な広報活動を充実させる。 ・メール配信、HP、学習支援クラウドサービス等を利用し情報提供に努め、学校の情報が保護者によりよく伝わるようにすることによって、家庭との協力体制のさらなる充実を図る。	(1) ア・防災訓練2回実施(火災・地震)。生徒、教職員対象AED講習会の充実。学校教育自己診断「緊急時対応」85%以上を維持[90%] ・災害時のWeb利用安否確認方法の研究状況。 ・防災分野の地域連携方法研究 イ・PTや委員会の新設改廃状況。円滑な組織運営。学校教育自己診断(学校運営)平均70%以上を維持[72%] (2) ア・香里会を年間10回以上実施。研究授業の実施状況(初任者:年2回以上、2年め:年1回以上)。アンケート肯定平均85%以上。[香里会21回、研究授業◎、アンケート100%] (3) ア・校内学校見学会年間3回実施、外部説明会7回参加[2回実施、2回参加] ・学校教育自己診断「保護者への適切な連絡や意思疎通」90%以上[86%]	(1) ア ・5/10に火災、10/25に地震とJ-アラート対応を想定した防災訓練を実施(○) 7月救急救命(AED)講習会(教職員向け、生徒向け各1回)(○) 「緊急時対応」90%(○) ・WEB利用安否確認10/25(○) ・「防犯及び防災計画」の更新(消防などとの協議により、避難確保計画などを更新)(○) イ ・食堂委員会は活動実績などを考慮して廃止し、生徒指導部に一本化。1人1台端末の活用を検討するGIGAスクール検討委員会を新設した。今年度リーディングGIGAスクール指定校になったことあり、ICTの効果的な使い方を探っていく 「学校運営」85.7%(◎) (2) ア ・香里会20回(◎) 研究授業5回、実習教員の授業見学2回(○) 参加者アンケート100%(◎) (3) ア ・校内学校見学会6/11、11/12、1/21の計3回実施(○) 外部説明会10回(○) ・「保護者への適切な連絡や意思疎通」85%(△) メールを受信可能な機器を所持している全員(生徒もしくは保護者、教職員<非常勤含む>)を登録、適宜配信を実施。 ・昨年開設した「香里丘バーチャルスクールツアー」(通算23,503PV)の維持・運営を行い、広報活動に役立てた。 ・同窓会の協力で、体育祭・文化祭のオンライン中継を実施した。
4 校務きの方効改革化のと推進	(1)ICTを活用した校務の効率化 (2)労働安全衛生管理体制の充実	(1) ・情報処理委員会を中心に校務処理システム等ICTの活用をさらに推進し、校務の効率化を図る。ICTを活用して教材等の共有化や成績処理など、日常業務の軽減を図り、教材研究をする時間を確保する。 (2) ・「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る	(1) ・ICT活用による業務軽減の状況。 (2) ・職員の平均時間外勤務時間前年度より削減。[31.7時間]	(1) ・ICTを活用した取組みにより、校務の効率化を図った詳細は以下の通り。(○) ➤ 学習支援クラウドサービス等を活用し、教材のデジタル化を進めるとともに、教職員を対象とした研修を実施。また、職員会議のペーパーレス化にも取り組み中。これらの結果ICTを活用する教員が増加している。 校務処理システムを活用した生徒の出欠管理や成績処理を行うことで、教員の校務の効率化を図っている。また、今年度から実施の観点別学習評価に対応した成績管理も順調。 ➤ フォーム作成ツールを活用して保護者からの遅刻・欠席連絡を受け付け。また、今年度から留守番電話も導入しており、教員の電話対応負担が軽減できている。 ➤ デジタル採点導入をにらみ、2学期から環境整備や試行、検証を続けてきた。来年度から導入を予定している。 (2) ・平均時間外勤務30.4時間(○)